



まさおか かずき
政岡 一樹

広島市下水道局計画調整課 課長



たなか たかし
田中 孝

戸田建設(株)
土木設計部設計2チーム 主管

◆これまでの経歴は

昭和42年4月に広島市役所に入所以来、ほとんどの期間を下水道事業に従事しています。この間、管きょの計画設計及び工事の監理を始め認可計画や事業調整など、主に下水道建設部門に携わってきました。

印象に残る業務として、下水道事業の企業会計化の準備室での資産整理が挙げられます。近年ストックマネジメントの導入が話題になる中、現在下水道資産台帳の基礎となる資産把握を行うため、工事契約書を1件ずつひもときスパン毎に管きょの資産整理を行うなどに大変苦労した思い出があります。

◆現在の担当業務は

現在は、計画調整課長として、汚水処理施設連携整備計画や施設保全中長期計画の策定や下水道台帳管理、設計積算基準、宅地開発審査のほか、受益者負担金徴収に関する業務などバラエティーに富んだ業務の総括を行っています。

◆本機構で行った仕事、本機構の事業活動についての意見をお聞かせ下さい

下水道機構とは、政令指定都市と共同の研究として実施している技術開発連絡会議のほか、平成7年より、浸水対策のB/C評価や合流式下水道改善対策計画の策定などご協力をいただき、現在、浸水ハザードマップの作成や下水道総合浸水緊急事業計画の策定をお願いしているところです。また、新技術の普及として、民間開発建設技術の審査証明や新技術マニュアルの策定などに組み込まれており、管更生工法やドロップシャフトなど、本市での新技術の導入に活用しております。

各都市の抱える課題が多様化する中、下水道機構には、今後とも我々の良きパートナーとして、実務のニーズに即した新技術の普及や技術支援に取り組まれることを望みます。

◆これまでの経歴は

土木系の技術社員として入社して今年で20年目となります。現場からスタートして、5年半ほどは造成、シールド、道路等の工事で職人達と一緒に汗を流しました。その後設計の部署に移り、主に管渠や都市トンネルを担当してきました。下水道との関わりも多く、現場ではシールドによる雨水管渠の築造、造成工事での汚水・雨水管渠の設置、設計ではシールドや推進による管渠の検討や技術支援等を行ってきました。

◆現在の担当業務は

最近では、公共工事の入札・契約方式が多様化し、総合評価落札方式、入札時VEや設計施工一括発注方式等、価格以外に技術的能力を求められるようになったことから、技術提案や受注後の設計施工一括発注方式の物件対応が主な業務となっています。この中には下水道工事もあり、現在、浸水対策と合流改善を兼ねた貯留管の設計に携わっています。

◆本機構で行った仕事、本機構の事業活動についての意見をお聞かせ下さい

私は平成11年9月から2年ほど下水道機構にお世話になりました。その際、国や地方公共団体、他の民間企業の方々と仕事ができ、貴重な経験を積むことができました。

弊社と下水道機構との関係といえば、「シールド発達立坑用地の省面積システム」を抜きに語ることにはできません。平成7年から下水道機構に育ててもらったシールド関連技術で、私も担当者の1人として関わってきました。また、「下水道処理施設ネットワーク施工技術」では下水道機構に何回か足を運ぶ機会があり、在籍中の雰囲気を出し懐かしくもありました。

最後に、下水道機構が自然と人の橋わたしにもなり、下水道を通じて持続可能な社会の実現に寄与し、ますます活躍の場が広がることを期待しております。



かんじょう よしのり
貫上 佳則

大阪市立大学
大学院工学研究科 教授

◆これまでの経歴は

下水道との出会いは、京都大学の宗宮功先生の講義に感銘を受け、研究室の門をたたいたことに始まります。学生時代は、津野洋先生、藤井滋穂先生、小野芳朗先生（現岡山大学）および山田春美先生にもご指導を受け、下水処理場の連続調査やコンピュータ解析による処理場機能評価の研究に携わり、下水道研究の奥深さと面白さを教えていただきました。

大学院を修了後、現在の職場に赴任し、故本多淳裕先生にご指導いただきました。先生からは、下水道だけでなく、し尿処理や廃棄物処理、悪臭対策まで幅広い視点を持つことの大切さを教わりました。その後、山田優先生とともに都市リサイクル工学研究室で下水道などから発生する副産物の有効利用に伴う環境対策に取り組み、昨年4月に山田先生から研究室を引き継ぎました。

◆現在の担当業務は

大学では環境水質学や水処理工学、水環境工学特論などの講義と、プロジェクト演習科目を担当しています。主な研究テーマは、副産物有効利用時における重金属や、都市内水域における環境ホルモン物質やPAHs、農薬など微量汚染物質の挙動とその対策です。

◆本機構と行った仕事、本機構の事業活動についての意見をお聞かせ下さい

SPIRIT21プロジェクトやLOTUSプロジェクト、資源のみち委員会、前凝集と担体を用いた高度処理システム技術委員会、堺市長期構想策定懇話会などに参画させていただきました。タイムリーな課題に対し産官学が一体となって解決の道筋を探るという仕事は本当に楽しい経験でした。今後は下水道・水環境分野だけにとどまらず、我が国の資源環境をも見据えた実効ある議論の場を提供いただくことを期待しています。



しみず としあき
清水 俊昭

(財)下水道新技術推進機構
下水道新技術研究所
研究第一部長

◆これまでの経歴は

昭和56年に当時の建設省に入省して以来、本省では下水道企画課や公共下水道課（現在の下水道事業課）などで勤務しました。出先では、東北地建の三春ダム工事事務所でダム建設に、下水道事業団では旧の計画課や工務課で地方自治体の下水道建設のお手伝いをさせていただきました。平成14年からの2年間福山市の助役を務めた後、前職の国土技術政策総合研究所下水道研究部を経て、本年4月より下水道機構に来ています。

◆これまでで思い出に残る仕事は

いろいろありますが、思い出深いのはやはりダム建設の仕事です。ダム建設は大きな自然の力が相手ですし、ダムそのものが宇宙からも確認できるほど巨大な構造物ですから、下水道とは違った達成感がありました。

私が携わったのは福島県にある三春ダムですが、最初の試験湛水が少雨のために全く水が溜まらず、竣工式を次の年に延ばしました。しかし、その年もまた雨が降らず、長期予報でも雨は少ないとのことで「今年も無理か」と関係者全員が肩を落としていました。ところが、年明けから一気に雨が降り出し、年度末ギリギリで無事竣工を迎えることができました。その時は本当に感慨深いものがありました。

◆今後の抱負をお聞かせ下さい

下水道機構は、これまで15年にわたる新技術の研究開発や技術情報の蓄積など多くの成果を残してきました。これらの中には現在、欧米の技術者からも注目されている技術も生まれてきています。今後は、これらの実績を軸にして、より広く、更に大きな事業分野への「新技術の橋わたし」ができるよう、微力ではありますが、精一杯力を尽くしてしていきたいと考えています。